

事業の概要

総事業費：4,602千円

【長野県上高井郡小布施町】

スラックラインジャパンカップ



重要文化財 浄光寺

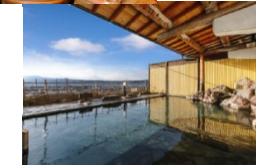


境内のスラックラインパーク

活用する地域資源



小布施町の味噌と温泉



スポーツツーリズムを核とした世界に誇る「スラックラインの聖地 小布施町」で稼げる新たな体験型商品の造成と「地域資源」を活用した持続可能な観光地域づくりのためのデータ収集・分析の実証事業

- ▶ 地域に根差したスポーツ・スラックラインの大会「スラックラインジャパンカップ」の開催
- ▶ 重要文化財「浄光寺」境内でスラックライン体験、発酵食や温泉など、近隣地域の資源等も活用したスポーツツーリズム観光コンテンツの造成および海外モニターツアーの実施やアンケートなどの各種調査の実施

<p>実施体制</p>	<p>【実施主体】一般財団法人長野経済研究所 【連携団体】一般社団法人スラックライン推進機構（委託先・大会の実施等） 株式会社Goolight・小布施文化観光協会・小布施町商工会・一般財団法人日本笑顔プロジェクト</p>
<p>地域の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの影響等で落ち込んだ観光需要の回復と冬季の閑散期における観光誘客が課題 ・歴史・文化の町で年配層の来訪者は多いが、若年層やインバウンドは更なる誘客が必要 ・スラックラインの聖地としての飛躍に向けて地域内の伝統ある歴史や文化、地場産業との連携などが求められている ・小布施町を中心に、近隣地域も巻き込んだ活性化に取り組むべく起爆剤・核となるイベント等の実施が不可欠
<p>実施概要</p>	<p>1.スラックラインジャパンカップの開催 【概要】スラックラインを軸に観光需要回復と観光閑散期の誘客を目指した地域PRの起爆剤となるイベント 【特徴】新型コロナ感染拡大前の開催では延べ来場者数約30,000人を誘客した大規模イベントの実績がある。 （※30,000人規模の誘客は「ワールドカップ」として大々的に開催したものの。） 本事業では当地の観光閑散期の1月に町内のアリーナ（体育館）を使用して「ジャパンカップ」を開催。 日本国内の若年層スラックライン愛好家のほか、海外からの招聘（モニターツアー）や近隣のスノーリゾートなどに訪れる豪州を中心としたインバウンドをターゲットに誘客し、国内外からの観光誘客に取り組む。</p> <p>2.スポーツツーリズムの観光商品開発に向けた地域資源の活用実証および調査・検証 【概要】地域資源の活用として、コンディショニングに有効な発酵食と温泉を組み合わせたスポーツツーリズムの商品造成に取り組む。また、当地では観光振興を推進していくうえで重要なデータが不足しており、本事業で実施する取り組みの中でアンケート調査などを行い、今後の観光振興・スポーツ振興の戦略策定に必要な情報収集にも取り組む。（観光DX） 【詳細】①味噌などの信州が誇る発酵食を活用したコンディショニング、②温泉資源を活用したコンディショニング調査・分析：スラックライン愛好家の意識調査、海外招聘者のモニターツアーを通じた地域ポテンシャル検証、アンケート調査による来場者満足度調査、地域内の周遊や観光消費に関する調査 など</p>
<p>補足説明</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当地は「スラックラインの聖地」として一定の認知があり、地域観光需要を喚起する起爆材となるイベントが期待できる。 ・地域内には重要文化財・浄光寺の境内でスラックラインが体験できるコンテンツがありインバウンドにも訴求できる。 ・「小さな町」ゆえに町内での産業連携が機能しており、地域が一丸となり持続可能な取り組みが実現できる。
<p>主なスケジュール</p>	<p>6-8月 イベント開催・商品造成の戦略策定、課題整理など / 9月～ 広告宣伝等プロモーション実施 8-10月 実施内容等の詳細検討 / 1月 ジャパンカップ開催・モニターツアー実施・アンケート調査 / 2月 分析・報告</p>